

10年、20年先の地域の姿を想像できますか？

「若い」はすべての人に必ずやっつけてきます。自分のこと。親のこと。そして子どもや孫の将来のこと。決して他人事ではありません。

地域包括支援センター ☎64-7721

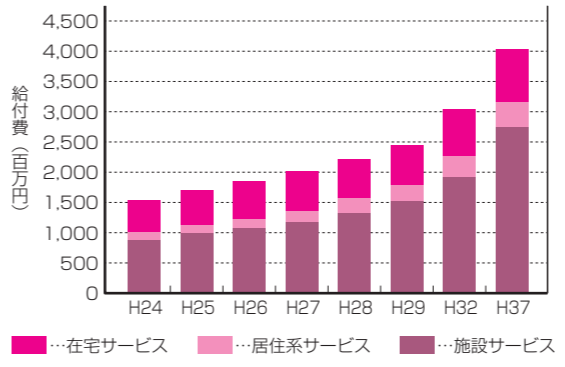


2025年には、団塊の世代が75歳以上の「後期高齢者」になり、医療や介護の需要が現在よりさらに増加することが見込まれます。玉村町も例外ではありません。今は働く世代が多いので、高齢化率は県内でも一番低い状況ですが、首都圏のベッドタウンと同様に急激に高齢化が進行することが予想されます。また、高齢化に伴い一人暮らし高齢者や高齢夫婦のみ世帯、認知症高齢者も増加することが予想されます。

第6期介護保険事業計画

次期計画となる「第6期玉村町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」では、持続可能な社会保障制度の確立を図ることを目的に、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築と地域包括ケアシステムの構築を目的とする「地域における医療及び介護の総合的な確立を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が平成26年6月に成立したことにより、介護保険法が大きく改正されることから、第5期で開始した地域包括ケアの実現のための方向性を継承しつつ、在宅医療・介護連携、認知症施策、地域ケア会議を推進するとともに、生活支援サービスの充実・強化を図り、平成37年度（2025年）までの中長期的な視野に立った新たな計画を作成します。介護保険サービスの利用者は年々増加し、介護給付費も増大しています。介護保険制度を維持するため、次期計画（平成27～29年度）では介護保険料の大幅な上昇が予定されています。

サービス別介護給付費の予想される推移



地域の絆を通じた、健康寿命の延伸を

町では、10年、20年先を見据えた地域づくりを支援しています。ふれあいの居場所や高齢者筋力向上トレーニング事業は地域の人たちの交流を通じて、健康増進や絆づくり、ひいては健康寿命の延伸に結び付いていきます。高齢になると一人で家に閉じこもりがちになります。閉じこもりは認知機能の低下や筋力の低下を招きます。地域に出て人と交流することで介護予防、認知症予防につながるとともに、近所の人とつながることで、災害や犯罪にも強い地域になります。健康寿命が延び近所の人たちとのつながりがある地域は、子育て世代にも心強い味方になります。

地域のふれあいの居場所や高齢者筋力向上トレーニングなどの地域の活動が継続し、次世代につながる活動になることで、あたたかい住んでいて良かった地域になります。健康寿命の延伸は、保険料の上昇を抑えることにもつながります。

皆さんも今から、いろいろな地域の活動に参加しませんか？ 参加することで、10年、20年後の自身の地域につながっています。

認知症サポーター養成講座を開催します

認知症は80歳以上では4人に1人が発症するというデータがあります。自分の家族や自分自身も何時発症するか分かりません。これからの超高齢社会では認知症の人を地域で支えることも大切なことです。ちょっとした支えでその人らしい生活を地域で続けることができます。

認知症とはどういう病気なのか？ どう接したらいいか？

日時 3月23日（月） 午後1時30分
場所 ふるハートホール（役場東側）